

第 3 3 回

全国大学等遺伝子研究支援施設 連絡協議会総会

議事要旨

日時：平成 29 年 11 月 10 日(金) ～ 平成 29 年 11 月 11 日(土)

場所：ほほえみの宿 滝の湯 本館 2 階 舞鶴

当番校：山形大学 医学部メディカルサイエンス推進研究所 遺伝子実験センター

第 33 回全国大学等遺伝子研究支援施設連絡協議会総会出席者名簿

文部科学省研究振興局 ライフサイエンス課 生命倫理・安全対策室	専門職	中西 健介
文部科学省 研究振興局 学術機関課	研究設備係長(併)研究支援係長	中島 大輔
北海道大学 理学研究院附属ゲノムダイナミクス 研究センター 遺伝子実験共同利用部門	教授	増田 隆一
弘前大学 農学部生命科学部附属遺伝子実験施設	准教授	赤田 辰治
東北大学 遺伝子実験センター	教授	本橋ほづみ
〃	技術補佐員	庄司 真未
山形大学 医学部 メディカルサイエンス推進研究所遺伝子実験センター	施設長/教授	中島 修
〃	助教	岡野 聡
茨城大学 遺伝子実験施設	施設長・教授	久保 山勉
〃	教授	安西 弘行
筑波大学 遺伝子実験センター	教授	松倉 千昭
〃	助教	津田 麻衣
宇都宮大学 バイオサイエンス教育研究センター	教授	松田 勝
〃	准教授	鈴木 智大
群馬大学 生体調節研究所 附属生体情報ゲノムリソースセンター	センター長	平井 宏和
〃	教授	畑田 出穂
埼玉大学 研究機構・科学分析支援センター	准教授	足立 明人
千葉大学 バイオメディカル研究センター	センター長	幡野 雅彦
東京大学ライフサイエンス委員会 遺伝子組換え生物等専門委員会	教授	三浦 竜一
東京医科歯科大学 リサーチコアセンター	助教	田中 ゆきえ
東京農工大学 遺伝子実験施設	准教授	松下 保彦
東京農工大学 バイオ研究基盤支援総合センター遺伝子実験分野	准教授	増田 真二
新潟大学 脳研究所 附属生命科学リソース研究センター	助教	宮下 哲典
富山大学 研究推進機構 研究推進総合支援センター 生命科学先端研究支援ユニット 遺伝子実験施設	技術職員	藤森 沙月
金沢大学 学際科学実験センター ゲノム機能解析分野 (遺伝子研究施設)	准教授	西内 巧

信州大学 基盤研究支援センター 遺伝子実験支援部門	准教授	松村 英生
〃	助教	小笠原 寛
岐阜大学 生命科学総合研究支援センター ゲノム研究分野	助教	高島 茂雄
静岡大学 グリーン科学技術研究所 研究支援室 ゲノム機能解析部	教授	河岸 洋和
〃	准教授	道羅 英夫
名古屋大学 遺伝子実験施設	教授	多田 安臣
〃	准教授	井原 邦夫
三重大学 生命科学研究支援センター 遺伝子実験施設	准教授	土屋 亨
京都大学 施設部環境安全保健課	課長補佐	増池 正和
〃	特定職員	松井 夏美
大阪大学 微生物病研究所 附属遺伝情報実験センター	准教授	三輪 岳志
神戸大学 バイオシグナル総合研究センター	教授	今石 浩正
〃	教授	坂本 克彦
鳥取大学 生命機能研究支援センター 遺伝子探索分野	教授	難波 栄二
〃	助教	足立 香織
島根大学 研究・学術情報機構 総合科学研究支援センター 遺伝子機能解析部門	センター長	中川 強
岡山大学 自然生命科学研究支援センター ゲノム・プロテオーム解析部	准教授	宮地 孝明
広島大学 自然科学研究支援開発センター遺伝子実験部門	センター長・ 教授	田中 伸和
〃	助教	北村 憲司
山口大学 総合科学実験センター 資源開発分野遺伝子実験施設	教授	水上 洋一
愛媛大学 学術支援センター	准教授	秋山 浩一
高知大学 総合研究センター 生命・機能物質部門	教授	大西 浩平
九州大学 遺伝子組換え実験安全委員会 遺伝子組換え実験安全委員会	副委員長	重村 憲徳
佐賀大学 総合分析実験センター	准教授	永野 幸生
長崎大学 先導生命科学研究支援センター ゲノム機能解析分野（遺伝子実験施設）	准教授	木住野 達也
〃	課長補佐	松山 英樹
〃	課員	佐藤 智佳子
熊本大学 生命資源研究・支援センター 遺伝子実験施設	准教授	荒木 正健

宮崎大学 フロンティア科学実験総合センター実験支援部門 遺伝資源分野	准教授	片山 哲郎
〃	助教	権藤 崇裕
鹿児島大学 研究支援センター 遺伝子実験施設	教授	田浦 悟
琉球大学 熱帯生物圏研究センター分子生命科学研究施設	教授	松崎 吾朗
東洋大学 遺伝子組換え実験安全委員会	副委員長	佐々木 和生
第一三共株式会社 遺伝子組換え実験安全委員会	課長代理	中山 淳一
国立環境研究所 遺伝子組換え実験安全委員会	主任研究員	前川 文彦
東邦大学 遺伝子組換え実験安全委員会	教授	佐藤 浩之
沖縄科学技術大学院大学 安全衛生セクション	セクション リーダー	田中 俊憲
産業医科大学 遺伝子組換え実験安全委員会	教育教授	宮田 博規
理化学研究所 安全管理部	安全管理室長	吉識 肇
〃	室員	日高 裕子
東海大学 遺伝子組換え実験安全委員会	教授	竹腰 進
アステラス製薬株式会社 研究本部 研究統括部 総括BS委員会事務局		辻井 栄作
〃		須崎 庸子
協和発酵キリン株式会社	マネージャー	吉田 均
日本たばこ産業(株)医薬総合研究所遺伝子組換え実験安全委員	主任研究員	丹羽 靖
武田薬品工業株式会社 医薬研究本部 遺伝 子組換え実験安全委員会	課長代理	大谷 賀一
龍谷大学 遺伝子組換え実験安全委員会	准教授	浅水 恵理香
中外製薬株式会社 研究業務推進部	課長	木野崎 雅彦
〃		若林 佐季子
奈良先端科学技術大学院大学 遺伝子組換え生物等安全管理委員会	教授	上久保 裕生
〃	URA	鹿野 隆人
岐阜医療科学大学 保健科学部臨床検査学科	教授	中山 章文
大日本住友製薬株式会社 研究本部 組換 えDNA実験安全委員会	主任部員	石井 貴之
埼玉工業大学 遺伝子組換え実験安全委員会	講師	秋田 祐介
大分大学 遺伝子組換え実験安全委員会	研究・社会連携 課研究協力第二 係	早咲 誠和
昭和大学 共同施設 遺伝子組換え実験室	准教授	荒田 悟
〃	助教	渡邊 潤

大塚製薬株式会社 創薬戦略部 研究推進室

課長 武田 聖

岩手大学 遺伝子組換え生物等安全委員会

教授 安川 洋生

熊本保健科学大学 医学検査学科

講師 山口 類

サントリーMONOZUKURIエキスパート株式会社サント
リーワールドリサーチセンター

実験管理G課長 山本 博

//

実験管理G 中井 伸子

第 33 回全国大学等遺伝子研究支援施設連絡協議会総会議事要旨

日時：平成 29 年 11 月 10 日（金） 13：30～17：15

場所：ほほえみの宿 滝の湯 本館 2 階 舞鶴

1 開会の辞

司会（山形大学中島氏）から開会の挨拶があった。

議事に先立ち、当番校の山形大学が議事を進行する旨提案があり、了承された。

2 当番校挨拶

当番大学の山形大学を代表して、久保田理事（研究、評価、病院担当）から挨拶があった。

3 議事

議事に先立ち、司会から、本日の予定と配布資料の説明があった。

1) 新規会員等の参加承認

新規会員等の参加承認について、遺伝子協議会事務局 足立氏から説明があり、奈良県立医科大学が正会員として加入することと、田辺三菱製薬株式会社及びサントリー MONOZUKURI エキスパート株式会社が企業会員として加入することについて、審議の結果承認された。

また、岩手大学、ロート製薬株式会社ロートリサーチビレッジ京都、熊本保健科学大学及び旭川医科大学が暫定会員として加入することが報告された。続いて、関西学院大学及び早稲田大学が退会することが報告された。

その後、出席しているサントリーMONOZUKURI エキスパート株式会社、岩手大学及び熊本保健科学大学から、新規加入に当たり挨拶があった。

2) 文部科学省施策説明

① カルタヘナ法について

文部科学省研究振興局ライフサイエンス課生命倫理・安全対策室専門職 中西氏より、カルタヘナ法における以下の点に関して資料に基づき説明があった。

カルタヘナ法の概要について

遺伝子実験の申請の流れ及び留意事項について

遺伝子実験の不適切事例について 施策説明があった。

② 学術研究を取り巻く動向についてー共同利用・共同研究体制の強化・充実ー

文部科学省研究振興局学術機関課研究設備係長（併）研究支援係長 中島大輔氏より学術研究を取り巻く動向について以下の点に関して資料に基づいて説明があった。

国公立大学を通じた共同利用・共同研究拠点制度について

平成 30 年度概算要求の状況について（共同利用・共同研究体制の強化・充実）

共同利用・共同研究の基盤整備等について 施策説明後、質疑応答が行われた。

山口大学水上氏から、共同利用・共同研究において使用する基盤的設備が老朽化しており、先端的な設備だけではなく、基盤的な設備を整備する必要がある旨指摘があり、これに対し、平成 30 年度概算要求において汎用的な基盤的設備の整備分予算を要求しており、補正予算も含めて検討していきたい旨の回答があった。

3) 事業報告（第 9 回遺伝子組換え実験安全研修会） 遺伝子協議会事務局 足立氏から、資料に基づき、以下のとおり報告があった。

平成 29 年 7 月 28 日、10 時～16 時まで一橋大学一橋講堂にて第 9 回遺伝子組換え実験安全研修会を開催した。

4) 委員会等報告

① 幹事会

田中代表幹事から、資料に基づき、以下のとおり報告があった。

本年度は 6 回（Web 会議 4 回を含む）の幹事会が行われた。

事務局設置変更について、議論を行った。

遺伝子組換え実験の教育訓練について、議論を行った。

Gene Drive 声明について議論を行った。

② 広報委員会

松田委員長から、資料に基づき、以下のとおり報告があった。

新委員として東京農工大学の松下先生に平成 29 年 12 月 1 日から参画いただく。

協議会のホームページについて、これまでのホームページ作成システムが提供終了となる予定であり、新サービスを使用して新たに作り直すこととした。経費としても従来型より抑えられる。今後、情報を更新していく。

活動報告書「遺伝子」について、1, 2, 3, 4, 9 号をお持ちの方は提供いただきたい旨の依頼があった。

③ 組換え生物等委員会

永野委員長から、資料に基づき、以下のとおり報告があった。

斎藤委員、丹生谷委員が退職となり、名古屋大学の井原先生、金沢大学の西内先生、沖縄科学技術大学院大学の田中先生を新たに委員として参画いただくこととなった。

組換え生物等委員会通信を 5 通配信した。名古屋議定書関係の記事が多かったと思われる。

カルタヘナ法に関する相談については、資料記載の相談が寄せられた。P1A 実験と P2A 実験を同じ部屋で行う場合どのように対応しているのかという質問があり、非常に悩ましい問題であるため、今後の安全研修会で議論していきたい。

事務方がカルタヘナ法相談窓口質問してくる場合があり、要領を得ない場合が散見されるため、研究者がカルタヘナ法をよく読み、理解していただきたい。

④ 教育教材 WG

三浦 WG 長から、資料に基づき、以下のとおり報告があった。

マニュアルを作成し、第 9 回安全研修会で報告している。HP 上でもアップしており、会員の方はダウンロード可能としている。利用にあたっての条件を守れば、自機関内で自由に改変いただいて構わないのでご利用願いたい。なお、利用状況について、アンケートを実施したいと考えている。また、スライド作成にかかる予算を幹事会の承認を得た上で、特別活動費から支出している。

⑤ NGSWG

井原 WG 長から、資料に基づき、以下のとおり報告があった。

今後の展開についてどうするかということと、今後 1 年程度の中で、ネットワークを構築して各機関の状況を確認したうえで、新しい展開をすべきか見極めたい。そのためお声がけをするかと思うが、ご協力をお願いしたい。

⑥ Gene Drive WG

田中 WG 長から、資料に基づき、以下のとおり報告があった。

9 月 20 日に「Gene Drive の取扱いに関する声明」を発表した。

生命においては 3 点をまとめている。

1. Gene Drive に関する情報を機関内に周知すること。
2. Gene Drive を用いた遺伝子組換え実験計画の有無を把握すること。
3. 適切な拡散防止措置が執られていることを確認すること。

なお、これから議論が必要な部分について WG で継続していきたい。

⑦事務局設置 WG

田中 WG 長から、資料に基づき、以下のとおり報告があった。

事務局を代表幹事の組織に設置するという点について、現実的に厳しいため、これまで鳥取大学の足立先生にお願いしていたが、事務的な手続きが煩雑であることや雇用関係の問題があり、議論の結果、新たに理化学研究所の日高委員を事務局担当をお願いするこ

ととなった。

なお、事務的に煩雑な部分については、外部委託を検討し、詳細を WG で議論の末、毎日学術フォーラムに一部委託することとなり、後程提案させていただく。また、事務局担当者に兼業という形で報酬を支払うという形をとることとした。

⑧続・ゲノム編集 WG

田中 WG 長から、資料に基づき、設立の経緯について説明の上、以下のとおり報告があった。

毎日新聞でゲノム編集についての問題提起があり、実際の社会的状況を見ながら、遺伝子協として動かなければならない状況となっている。環境省でゲノム編集制度に関する意見聴取を始めるとの情報があり、9月より遺伝子協として WG メンバーからの意見を取りまとめ、議論をしている。

⑨遺伝子組換えカビ・キノコの拡散防止措置ワーキンググループ

西内 WG 長から、資料に基づき、以下のとおり報告があった。

容易に孢子が飛ぶ可能性があるカビとキノコについて、拡散防止措置を検討することとなり、各機関にアンケートを実施した。

49 研究機関からの回答結果は資料のとおりであり、今後は年度内に各研究機関の具体例を持ち寄って拡散防止措置を策定する予定であり、来年度の安全研修会でたたき台を提出したい。

⑧ 実験計画書書式・審査検討 WG

吉識 WG 長から、資料に基づき、以下のとおり報告があった。

5月に会議を行い、アンケート調査について議論をし、6月に調査を実施した。7月の安全研修会で報告したものの詳細を今回資料としてまとめている。来年の安全研修会に向けて続けて議論していきたい。

5) 提案議題

会員特典の明記について、アステラス製薬 辻井氏から、以下のとおり説明があった。

民間企業においては、会費を払う際に、経理上、寄付として取り扱われることがあり、会則の中に、実施機関が加入するにあたってのメリットを記載していただきたい。

その後、田中代表幹事より、資料のとおり会則の改定案を示しており、会則の改定と HP の会員特典の追記により対応することとしたい旨説明があった。なお、会則第 2 条第 6 項の具体については資料のとおり HP に掲載することとしたい旨併せて説明があった。

会則制定の経緯について質問があり、難波幹事より会員種別の設置の経緯について説明があった。このことに関連し、田中代表幹事より、遺伝子協の名称も含めて会則改定につ

いて議論していかなければならない旨説明があった。

審議の結果、会員特典の明記について、了承され、後に行われる会則改定において最終的に審議されることとなった。

6) 事務局の業務委託について

遺伝子協議会事務局 足立氏から、資料に基づき、以下のとおり説明があった。

事務的な部分と専門的な部分を鳥取大学の足立が担当していたが、業務が大変であること、および代表幹事が変わると事務局が変わることが煩雑であることから、外部委託を行い、経理の透明性も含めて運営することを検討していた。外部委託の内容と事務局変更に伴う変更点も考慮し、定型的な業務については毎日学術フォーラムに委託することを幹事会で了承いただいている。

審議の結果、事務局の業務委託について、了承され、後に行われる会則改定において最終的に審議されることとなった。

7) 会則改定について

田中代表幹事から、会則改定案について説明があり、会則第20条に基づき、会則の変更を総会において出席している正会員の投票により同意を確認後、議決することが確認された。

投票の結果 正会員出席数 52 に対し、

会員特典の明記について 賛成52票、反対0票、白票0票

事務局の業務委託について 賛成52票、反対0票、白票0票

であることが監事により確認・報告され、出席正会員数の過半数を満たしていることから可決・承認された。

8) 決算報告

遺伝子協議会事務局 足立氏から、資料に基づき、平成28年度決算報告書の説明があった。

引き続き、熊本大学の荒木監事から、平成28年度決算報告書について、鳥取大学の難波監事とともに会計監査を実施し、適切に処理されていることを確認した旨の報告があった。特段、質問・意見は挙がらず、平成28年度決算報告は承認された。

9) 事業計画、予算案について

田中代表幹事から、資料に基づき、平成30年度予算案の説明があった。なお、以下のとおり補足説明があった。

事務局経費として事務用品費等の他、業務委託費を計上している。事務補助者雇用経費として3名分を計上している。

特別活動費は年度途中で企画が発生したときに使用できる経費として計上している。特段支出することがなければ使用せず、次期繰り越しとなる。使用については幹事会での承認を必要としている。

特段、質問・意見は挙がらず、平成 30 年度予算案は承認された。

1 0) 次回安全研修会について

遺伝子協議会事務局日高氏から、資料に基づき、平成 30 年 7 月 28 日（土）に名古屋国際会議場（名古屋市熱田区熱田西町 1-1）にて開催する予定である旨の報告があった。

1 1) 次回当番施設について

遺伝子協議会事務局足立氏から、資料に基づき、次回（第 3 4 回）当番校は長崎大学、次々回（第 3 5 回）当番校は千葉大学、次々々回（第 3 6 回）当番校は佐賀大学である旨の報告があった。その後、次回当番校の長崎大学先導生命科学研究支援センター ゲノム機能解析分野（遺伝子実験施設）木住野達也准教授より担当の挨拶があった。

1 2) その他

大阪大学三輪氏から、教育教材 WG から報告された教材の利用についてどのような方針か質問があり、三浦 WG 長から使用の手引きを作成しているところであり、また、会員所属機関内で使用するには問題ないが、データ等を機関外に出すことはできない旨回答があった。

引き続き、大阪大学三輪氏から、理解度テストのフィードバックについて、遺伝子協で検討しているのか質問があり、三浦WG長から、WG 内で作成中であることと、問題を収集し、HP 上で情報をアップする旨回答があった。

4 閉会の辞

司会（山形大学中島氏）から閉会の挨拶があった。

以上